



高岡 **北**
ロータリークラブ
TAKAOKA-NORTH
ROTARY CLUB



例会日・毎週月曜日 12:30～13:30	創立・1980年5月19日	会長 野尻 信晴
例会場・ホテルニューオータニ高岡	認証・1980年6月12日	幹事 吉谷奈艶子
	国内創立順位・1489	会報委員長 魚住 晃一

第1784回 例会 9月 7日(月)

- ◇点 鐘
- ◇国歌斉唱
- ◇ソング “四つのテスト”



◇会長挨拶並びに報告

台風10号が近づいております。古城公園の市民会館前に車を止めておりましたら、大きな木が倒れており、造園業者が一生涯懸命処理しておられました。台風は、いつも立山連峰にぶち当たって太平洋側に行くのですが、温暖化の影響でしょうか、富山県には寄らず、沖縄に寄り、九州に寄り、韓国に抜けていくようです。気の利いた台風だと褒めてあげたいです。

私は昔から鈴虫を飼っていますが、6月の末に卵が孵り、はじめは真っ白な姿ですが、やがて蟻のように真っ黒になり100匹ほどになりました。その中で共食いをし、今日、ようやく鳴きました。この暑いのに一生懸命鳴いております。家の中でも耳を澄ませると、名も無い虫が鳴いております。道端には、青色のきれいな花が咲く露草が生えております。だんだん秋に近づいております。

村牧さんがLINEグループで色々と相談事など書いておられますが、暇つぶしにいいですね。24名の会員の皆様が見ておられるということです。これからは質問や悩み事、相談事があったら、LINEしたらよいと思います。優秀な皆様から返信があると思いますので。

そのLINEで、この間は吉谷幹事から、スズメバチの質問があったり、今朝は、赤い車の目撃情報があったりと、多岐にわたります。この赤い車は、吉谷さんの車らしいですが、私は消防自動車や郵便局の車かと勘違いしておりました。あと、写真の枝は榊かどうかを教えてほしいという質問もありましたが、これは、上田宮司さんに聞いてみないと分からないと思います。榊は葉を折ったら「パリン」というきれいな音がするらしいです。榊もどきはたくさんあるみたいですね。

私は趣味でパークゴルフをしております。年配の方がたくさん来ておられます。暑くないのかと思いますが、河川敷なので、結構涼しい風が吹きます。この間大雨が降ってテントまで走ったら足をくじいた人がいらっしゃいました。皆さんも気をつけてください。

今日は海下会員の卓話です。後ほどよろしく申し上げます。

◇ニコニコBOX報告

野尻会長：台風10号が近づいて来ています。富山には立ち寄らず、韓国のほうへ行くらしいです。魚住さん、村牧さんにお世話になっております。海下さん、卓話よろしく申し上げます。

水原延幸君：8月のはじめに、耳の聞こえが悪くなり、病院へ行ったらメニエール病と診断されました。ストレス解消ということで、ゴルフをしたら9月に入ってやっと良くなりました。皆さんストレスはためない様に！！

【今年度ニコBOX累計額 134,000円】

◇9月誕生日祝い

- 山辺知代君(6日、53才)
- 宮田義弘君(16日、66才)
- 前田 央君(26日、59才)



◇出席報告 出席者 26名 メイクアップ済 2名

名誉会員	会員数	本日の出席率	8/24 例会 修正出席率
1名	36名	93.33%	88.89%

(内Zoom参加は1名でした)



◇本日のプログラム (担当：世界社会奉仕)

会員卓話「識字率向上月間に因んで」

海下 巧 会員

「基本的教育と識字率向上」とは？

世界には子どもたちが基本的な教育を受けられず、成人が十分に読み書きできない国や地域があります。そうした地域で基本的教育を提供し、識字率を上げれば、そのほかの諸問題の解決(貧困の削減、健康状態の改善、地域社会と経済の発展、平和構築など)の糸口をつかむことができます。「基本的教育と識字率向上」は、ロータリーの6つの重点分野の一つとなっています。

基本的教育・識字が重視される理由

- すべての女性が初等教育を修了すれば、妊婦の死亡率は66%減少する。
- 読み書きのできる母親を持つ子どもは、読み書きのできない母親の子と比べて、5歳以上まで生き延びる確率が50%高い。
- 低所得国で全生徒が読み書きを習得した場合、1億7,100万人が貧困から抜け出すことができる。これは全世界の貧困の12%に相当する。世界的に、教育・識字の分野では進展が見られています。2014年国連ミレニアム開発目標の報告書によると、成人と青少年の識字率は上がっており、男女差も縮まっています。しかし、まだ多くの面で課題が残されています。
- 世界で5,800万人の子どもが学校に通っていない。
- 4年間の初等教育を受けた後も読み書きのできない子どもが2億5,000万人いる。
- 7億8,100万人の成人が読み書きできない。

地域社会のニーズを調べる

プロジェクトを始める前に、まず地域社会の「ニーズ」(何が必要か)と「リソース」(何を地元で調達できるか)を確認することが大切です。これを調べるために、地元の人と協力して、徹底した地域調査を行いましょう。

調査の段階から地元の人と協力すれば、適切なニーズが見つけれられるだけでなく、地元の支持やサポートを得た上で、持続可能性の高いプロジェクトを実施できます。調査方法については、ロータリーの出版物「地域調査の方法」をご参照ください。

教育と識字に関する活動では、学校運営者、教員、親・保護者、生徒、文部省や教育委員会の代表者とも協力しましょう。

調査では、「はい」「いいえ」で答えられる質問ではなく、オープンエンド(自由回答式)の質問を投げかけます。物資の支援だけでなく、人びとの能力向上につなげるために次のような質問をしてみましょう。

教員に対して：

「どのようなスキルを伸ばしたいと考えていますか」
「あなたが目指す教育とはどのようなものですか。それを達成するには何か必要ですか」

保護者に対して：

「子どもが成人したらどんな職業についてほしいと思いますか」
「その仕事に就くために、どのようなスキルや教育が必要ですか」

生徒に対して：

「学校のどんなところが好きですか」
「どんな学校になったらいいと思いますか」

プロジェクトに参加したいと望む生徒もいるはずですし、何より、プロジェクトの影響を大きく受けるのは生徒たちです。生徒が何を望んでいるか(または望んでいないか)を把握することがプロジェクト成功の秘訣です。

ニーズに加え、リソースも確認しましょう。現地に十分なリソース(人材など)があれば、それをうまく活用することで、外部からの援助をほとんど必要とせずに、地域社会の人たちが自力で課題を乗り越えられることもあります。リソースを調べる際は、関連分野で既に活動している団体があるかどうか確認しましょう。そうすることで活動の重複を避け、ロータリーはほかのニーズに取り組むことができます。

地域社会のニーズに応える

基本的教育・識字のニーズがある場合、その多くは以下いずれかのカテゴリーに当てはまるはずで

- ・ 成人の識字教育が必要
- ・ 子どもたちが学校に通えるよう支援が必要
- ・ 教育効果を高める支援が必要
- ・ 教材が必要

調査の結果、基本的教育と識字のニーズがないとわかったとしても、調査は決して無駄ではありません。むしろ、不必要な活動に時間やリソースを費やさずに済み、ほかのニーズが見つかることもあるでしょう。

